令和３年度　No. 3

駒岡小学校だより　６月号

子どもたちの笑顔のために

副校長　霜田　恵子

先日、全校なかよし遠足が行われました。晴天の下、三ッ池公園に出かけました。

６年生は、各班のリーダーとして優しく下級生に接し、期待に応えて立派に役目を果たしました。この日のために時間をかけて準備や練習を進める最上級生の姿と、上級生を信頼し頼りにする下級生の姿を見ることができました。

高学年の子どもたちは休み時間も委員会の常時活動に責任をもって取り組み、学校のために役割を担い活躍しています。頼もしいです。地域の方々のお世話になりながら２年ぶりに稲作体験が始まった５年生。５月の急な雨や蒸し暑さの合間をぬってサツマイモの植え付けや、方面別に何回もまちたんけんにも出かけた３年生。社会科の学習で地域のごみ収集の方法に興味をもって学び、クラブ活動に期待を膨らませる４年生の姿も見かけました。２年生は、１年生の学校たんけんのお世話だけでなく、まちたんけんにも出かけ、生活科で育てる野菜の苗を購入していました。学校たんけんでかわいい挨拶をしてくれた１年生は、給食や掃除のやり方をしっかり身につけ、この２か月で目を見張るような成長を遂げています。

振り返ると、昨年のこの時期はこんな生き生きとした子どもたちの笑顔は、あまり見られなかったなあと思います。感染リスクを恐れ、「自粛、延期、中止…」となり、閉塞感でいっぱいの中、三密回避を徹底し、恐る恐る学校を再開させた日々を思い出しました。あれから１年、専門家の方々の研究や分析から明らかになったことがあり、感染防止対策をしっかり行えばできることが増えてきた学校現場です。どうやったらこの状況でも以前のような教育活動に近い形で実施できるのかを様々なリスクを想定しながら話し合いを重ね、計画を立てております。例えば、「保護者の皆様が土曜授業参観にお越しいただくには、どのような感染防止対策を講じればよいのか。」「密にならずに体力テストを実施するには、従来のやり方では難しい。」「マスクを取って実施する安全な水泳学習の行い方は、どうあるべきか。２mの間隔をあけて実施するには、一度に入水する人数を減らさなければならない。」「安全な宿泊体験学習は…」等々です。さらには、万が一の感染急拡大にも対応できるリモート学習に対する準備も進めています。

本校は児童数が多く、空き教室はほとんどないため、他の学校と比較して密になりやすい環境です。人数の割に場所が狭いので人数制限が必要となります。その結果、一人当たりの活動時間を短縮するか、もしくは実施時間の倍増…いや４倍増を計画しなければならないこともあるのです。一昨年までのやり方を踏襲するのでなく、昨年のような一律中止でもなく、新たな方法を計画立案することの大変さに直面しています。

頭を抱えることが多い中、救いは子どもたちの明るい笑顔と、教職員の前向きな姿です。昨年度より、新しい生活様式を取り入れ、それを忠実に守ってくれる児童のおかげでこれまでクラスターを発生させることなく教育活動を継続してくることができました。子どもたちは、手洗いを続け、マスクを着用し、無言で給食を食べ…健気に頑張っております。教職員も、児童が登校したら、真っ先に健康観察を実施し、換気に気をつけ、自己の体調管理にも留意して勤めています。児童のために… と柔軟に考え、新たなアイディアを出して熱心に話し合っています。暑くなり、熱中症の危険性も考慮しながらの日々を迎えていますが、子どもたちの安全を第一に考え、このような状況でもでき得る限りの充実した学校生活実現を目指して、可能性を探ります。

温かい目で見守っていただき、皆さまのご理解とご支援をどうぞよろしくお願い申し上げます。